



屋上緑化の意義：都市環境改善と建物の価値向上

屋上緑化は、都市部特有の高温化現象であるヒートアイランド現象の緩和に、複数の作用を通じて貢献します。

その主なメカニズムは、植物の蒸散作用、緑化層による遮熱効果、そして土壌による保水効果です。植物が葉から水分を蒸発させる際、周囲の熱エネルギーを吸収するため、屋上表面やその周辺の気温上昇を抑制します。特に夏季の強い日差しのもとでは、この冷却効果が顕著に現れます。

また、緑化層を構成する植物や土壌は、アスファルトやコンクリートといった従来の屋上被覆材と比較して、太陽光の吸収率が低いため、屋上表面の温度上昇そのものを抑制します。

これにより、建物内部への熱の侵入を減らし、空調負荷を軽減する省エネルギー効果も期待できます。さらに、土壌は降雨を一時的に貯留し、ゆっくりと蒸発させることで、路面などの急激な温度上昇を防ぎ、都市全体の熱環境を穏やかに保つ役割を果たします。

ただし、屋上緑化によるヒートアイランド緩和効果の程度は、緑化面積の規模、植栽する植物の種類

類や密度、地域の気候条件など、様々な要因によって左右されます。

広範囲な都市部全体での屋上緑化の推進によって、より顕著な気温低下効果が期待できる一方、個々の建物における効果は限定的な場合もあります。

また、屋上緑化はヒートアイランド緩和以外にも、建物の断熱性向上による省エネルギー、屋上防水層の保護による長寿命化、雨水流出の抑制、都市景観の向上、そして都市における貴重な緑地空間の創出による生物多様性の保全といった多岐にわたるメリットをもたらします。

一方で、初期導入コストや維持管理の手間、建物の構造的な負荷、適切な灌水装置の必要性といった課題も存在します。

屋上緑化はヒートアイランド現象を完全に解消する万能な対策ではありませんが、他の都市熱対策と組み合わせることで、より持続可能な快適な都市環境の実現に貢献する重要な要素の一つと言えるでしょう。

スタッフ紹介

最近、観葉植物のお世話

本社の総務部に所属しております。幸野麻衣と申します。

2024年の年始に派遣社員として入社し、10月にありがたく正社員登用となりました。主な業務は事務処理で、仕入・経費の請求書処理、また納品の請求書発行です。昔から算数が苦手で、数字のことを聞かれましたが、1年半が経過し、ようやく慣れてきたところであります。

また、毎日総務部の先輩方と一緒に受注処理もしています。皆さんそれぞれ受注しているため周りをサポートしている状況を見て、コミュニケーションをとるしながら手分けして受注処理を進めるのがやりがいでもあります。

現在私は本社の中で一番社歴が短いのですが、先輩方が気さくに優しく話しかけてくれます。総務部の方々はもちろんのことですが、営業部と同じ空間で仕事をしています。営業部の方々に別け隔てなく接して頂いています。さすが営業部。お話の上手な方が多いので、すごいなあ。と業務ではなくとも、いつも勉強させていただいています。



をできるようになり、面白さを感じています。

今我が家にはいるのはモンステラ、ウンベラータ、スパティフィラムと育てやすい品種ばかりではあります。水やりの量や頻度、鉢の大きさ、土の状態、剪定状況によって育ちが本当に大きく変わります。

季節柄仕方ない部分はありますが、冬にだんだん元気がなくなる様子を見て置く場所を変えたり、葉水する頻度を変えたりするうちに冬の寒さで葉っぱが全てなくなってしまうウンベラータも今ではもさもさと葉を増やしていますし、モンステラも元々置いていた場所では手狭になっているので大きく成長していると、それを見ていると幸せな気持ちになります。

同じように仕事でも周りの状況をこまめに見渡して先輩方の手の届かない場所をしつかりフォローできるように努めます。今後とも、よろしくお願ひ致します！

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.jp>

Vol.69

映画で学ぶ 環境問題

インターステラー
Interstellar



監督：クリストファー・ノーラン
脚本：ジョナサン・ノーラン
出演：マシュー・マコノヒー
アン・ハサウェイ
配給：パラマウント映画
ワーナー・ブラザーズ
上映：169分
公開：2014年

本作は壮大な宇宙を舞台に、人類の存亡をかけた過酷な旅を描いています。ブラックホールやワームホールといった宇宙物理学の概念を駆使した映像美と、父娘の愛というテーマが観る者の心を深く揺さぶります。しかし、その物語の根底には、現代社会が直面する深刻な環境問題が色濃く反映されているのではないのでしょうか。

物語の舞台となる近未来の地球は、深刻な環境悪化によって砂塵嵐が吹き荒れ、農作物は枯れ果て、人類は食糧危機に瀕しています。かつてNASAのバイロットだった主人公クーパーは、今は農夫として、娘マーフと共に過酷な現実を生きています。

科学技術は過去のものとなり、人類はただ滅亡を待つばかり。この荒唐した地球の姿は、決して遠い未来の空想ではありません。

映画で描かれる砂塵嵐は、土壌の劣化と気候変動がもたらす最悪のシナリオを象徴しています。過剰な耕作や森林破壊によって大地は生命力を失い、異常気象が頻発することで、作物は育たなくなり、これは、現代社会が抱える土壌汚染、砂漠化、そして地球温暖化といった複合的な環境問題と重なります。

現在、世界各地で森林破壊が進み、農地の過剰利用による土壌劣化が深刻化しています。気候変動は、異常な高温や干ばつ、洪水などを引き起こし、農業生産に壊滅的な打撃を与

え始めています。映画の中で、クーパーがかつての豊かな地球を懐かしむように、もしこのまま環境破壊が進めば、私たちの未来もまた、砂塵に覆われた不毛な大地へと変貌してしまうかもしれません。

作品で描かれている世界では、かつて宇宙開発を主導したNASAは解体され、科学技術は過去の遺物として扱われています。これは、環境問題への対策を怠り、科学技術の発展を軽視した結果、人類が未来への希望を失ってしまった姿を描いていると言えるでしょう。

現代社会においても、一部で環境問題への対策を軽視する声や、科学技術の発展を盲信する風潮が見られます。しかし、地球の環境問題は複雑に絡み合っており、単一の技術革新だけで解決できるものではありません。科学技術の発展と、環境への配慮を両立させ、持続可能な社会を築くための努力を怠れば、本作のように未来が無くなってしまうかもしれません。

物語の中心には、クーパーと娘マーフの強い絆が描かれています。クーパーが宇宙へと旅立つ決断をしたのも、未来の世代のために地球を救いたいという強い思いがあったからです。マーフもまた、父の意志を受け継ぎ、地球に残って科学者として問題解決に尽力します。

この父娘の愛の物語は、私たちが次世代に対して負う責任を象徴しています。私たちが今、環境問題に真剣に向き合い、持続可能な社会を築くための努力を怠れば、未来の子供たちは、映画のマーフのように過酷な環境で生きること強いられるかもしれません。

『インターステラー』を単なるSF映画として終わらせるのではなく、その奥に潜む環境問題への深いメッセージを受け止め、私たち自身の行動を見つめ直すきっかけとすべきではないでしょうか。未来の地球を救うために残された時間は、一刻と過ぎていきます。

私たち一人ひとりが「インターステラー」の登場人物になったつもりで、未来への責任を果たすべく行動をおこす時ではないのでしょうか。

本作インターステラーは、単なるSF映画ではありません。それは、私たちが目をそらしてはいけない地球の未来の姿を、描き出した警鐘の物語とも思えます。映画が描く未来は決して明るいものではありませんが、同時に、まだ私たちには未来を変える力があることを思わせているのではないのでしょうか。

今、私たちができることは何でしょうか。それは、地球温暖化対策、再生可能エネルギーへの転換、資源の節約、廃棄物の削減など、多岐にわたります。一人ひとりの行動は小さいかもしれませんが、それが集まれば大きな変化を生み出すことが可能です。